

# 日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 ㊟227-0045横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

## ボストン日本人学生会調査 (その後)

三好 彰

明治末から第2次世界大戦を挟んで終戦直後までの約40年間にボストン地区で学んだ日本人学生の記録を調べている。平成18年春に日本ボストン会のインターネットのホームページに名簿を載せた。それをご覧頂いて自分の名前が出ているとか祖父の名前を見たがと云って連絡して下さった方がある。この場を借りてご協力に感謝申し上げたい。又筆者が同名異人を混同していたなどの間違いをご指摘いただいたことがある。ご迷惑をおかけしたのだが、激励のお言葉を返していただいていた。恐縮している。

これらのほかインターネットや新刊本などから新たな発見も多数あったので、平成19年12月にホームページの記事を更新した。この記事には600余人の日本人関係者が出てくる。留学生、客員教授、短期的な日本からの訪問者のほかに、学生を支援された在留邦人の方々である。その内の約4分の3の方々について、何らかの情報が得られた。

また200人弱のアメリカ人が出てくる。大学関係者と親日家であるが日本人より調べるのが難しく、その内の約半数の方々しか情報が得られていない。それでも日米関係の一つの側面が見えるような気がしている。

連絡をいただいたのは明治と大正時代の留学生のお孫さん、帰国後の職場の関係者、昭和初期の留学生のご子息、終戦直後に留学されたご本人などである。

ボストン日本人学生会の創設に尽力された初代会長の望月松太郎氏のお孫さんからは松太郎氏のご著書を頂いた。学友に日本銀行創設者の縁者が居たというので調べたら第2代会長の新井米男氏のことだった。新井氏は松方正義の孫にあたり、ライシャワー夫人のハルさんの母方の伯父である。なお新井氏は米国生まれの二世であり、コネチカット州に現存する生家はアメリカの史跡になっている。

第3代会長の鈴木謙吉氏が帰国後に教鞭をとられた長崎の如水女学校(現在の如水女子大学)から写真をたくさん送っていただいた。その写真に留学生のために講演をしたHerbert George Welchが写って

ている。この方は朝鮮(当時)で基督教の布教活動をしたが、その前はオハイオ州にある Ohio Wesleyan University の学長だった。如水女子大学の創設者(アメリカ人)が同校の卒業生であり、鈴木氏もハーバード大学で学ぶ前にこの学校で学んでいた。

大正半ばに山本五十六と留学時期が重なる竹内孝一郎氏のお孫さんから貴重な写真を送っていただいた。留学中の山本五十六、森村勇と竹内氏の写真(大正8年)、ワシントン軍縮会議の直前に訪問した国会議員団とボストン日本協会の昼食会(モース博士出席、大正10年)の写真やMITのテラー教授の三井会館での歓迎会(三井高修、團琢磨が同席、大正13年)の写真などである。

昭和になってからは、高松宮様が新婚旅行でボストンを訪問されたときの晩餐会(昭和6年)の写真と同席された作曲家・大澤寿人氏のご子息から送っていただいた。大澤氏はボストン交響楽団を指揮した最初の日本人である。氏の作品が最近になって再評価されて演奏会で取り上げられるようになったのは嬉しい限りである。

お父様が昭和時代にハーバード大学に留学され、現地で生まれ育った藤代素子さんは、この記録集を御厳父が現地(ケンブリッジ)に残されていた遺品の中から発見された方だが、戦前と戦後の多数の写真を送って下さった。そして大澤氏や氏の留学仲間である経済学者の都留重人氏、国際的な庭園学者の下村重丸氏のことを懐かしく思い出したと言って喜んでくださり、調査の励みになった。

またMITで航空機を研究され日米交換船で帰国された上條勉氏のご遺族から遺稿集を頂戴した。この本に上記のテラー教授に教わったことが書かれている。

このようにホームページのお陰で調査が進むとともに関係者との交流が生まれ、そして調査の幅が広がってきた。とはいえ調査は道半ばの感はぬぐえない。この機会にホームページの記事をご覧いただき、お気づきのことをご教示いただければ幸いである。